

<第4305回>

目的地：姫越山・神島（三重）〔大人の遠足〕

担当者：時本（主）・岸本（副）・島崎（副）

実施日：2022年10月29日（土）～30日（日）

形式：旅館泊山行

費用：¥24,000.（全国旅行支援適用）

参加者：12名

行程：

10/29 天気：晴れ

大阪上本町駅(7:45)⇒鶴橋駅(7:48)＝〔近鉄特急〕⇒(9:34)伊勢市駅 / 伊勢市駅前レンタカー営業所(10:03)＝〔レンタカー〕⇒(11:00)日の出公園駐車場(11:20)→(11:57)展望台〔昼食〕(12:32)→(13:53)姫越山[503m](14:07)→(15:15)展望台(15:20)→(16:05)日の出公園駐車場(16:20)＝〔レンタカー〕⇒(17:40)賢島宝生苑〔泊〕

10/30 天気：晴れ

賢島宝生苑(8:35)＝〔レンタカー〕⇒(9:05)鳥羽展望台(9:20)⇒(10:12)鳥羽駅前レンタカー営業所(10:20)→(10:30)佐田浜港(10:45)＝〔定期船〕⇒(11:25)神島港(11:30)→(11:55)神島灯台(12:03)→(12:15)燈明山[171m]→(12:30)監的哨跡〔昼食・ティータイム〕(13:40)→(13:50)カルスト地形(14:00)→(14:41)神島港(15:50)＝〔定期船〕⇒(16:30)佐田浜港 / 鳥羽駅(17:34)＝〔近鉄特急〕⇒(19:30)鶴橋駅〔解散〕

感想：

〔10月29日（土）〕

「大人の遠足」シリーズはKさんとSMさんが実施してこられた、あまり厳しくない山行に旅行の要素を加味した例会のシリーズで、最近では実施されていませんでしたが、最盛期には半年に1度実施されていた人気のブランドです。姫越山・神島例会を着想したとき、内容が「大人の遠足」シリーズのコンセプトと一致しているため、単に私が単独で実施するより「大人の遠足」という冠を付加した方が分かりやすいと思ったため、KさんとSMさんをお願いして「大人の遠足」シリーズとして実施させていただきました。「大人の遠足」として実施する以上、「大人の遠足」のブランドを立ち上げ維持して来られたKさんとSMさんに共同担当をしていただくことが良いと思い、共同担当をお願いしたところ快く引き受けていただきました。最初に計画した後、コロナ禍の影響を受け2回中止になったため約3年が経過し、この度ようやく〔大人の遠足〕姫越山・神島例会を実施できることとなりました。

初日、往路の近鉄特急では参加していただいた方が12名と多く、車両の後方に座席を確保したため、大阪青雲会のメンバーだけで広がりのある車内風景が撮影できました。伊勢市駅到着後、レンタカー2台に分乗して姫越山登山口の駐車場に向かいました。皆さんがどちらのレンタカーに乗車するかは先程の特急車内でアミダくじで決めました。

海のすぐ横の登山口から標高約200m近くまでは急な坂道を登ります。その後傾斜が緩くなり海が見える展望台にやってきました。天気の良いため、見える風景の発色が良く、海も輝いていました。時刻は丁度12:00頃だったため、ここで昼食としました。ところがその昼食で、晩御飯をおいしく食べるためということで、残されたり他の人にあげたりする人がおられ、宿を手配した私には相当プレッシャーとなりました。もし、皆さんが期待されている水準に満たない場合は冷ややかな視線が向けられるのではないかと。負荷は軽いとはいえ、標高差500mの山に登るわけですから、普段よりお腹が空くはずで、それを十分に食べようとしない人がいらっしやるとはそれだけ期待が大きいということです。もっとも私には宿の人にお任せするしかなく、他力本願な状態でした。

展望台からもひたすら登りの道を進みます。事前にYoutubeで登山道や関連情報を確認されていた

TMさんから、登山道の状態や姫越山の名前の由来について説明がありました。頂上までの途中で海が見える場所があるとの説明を受けた後、しばらく進むとその通り海が見える場所にやってきました。この他にも説明通りの状態が表れたため、TMさんは皆さんから「下見をしてきたのではないか」とか、「登るのは(今回で)2回目ではないか」と言われていました。姫越山への登山道は海の近くにあるのですが、外洋が見える場所は展望台と途中の1カ所と頂上の計3カ所です。その他に駐車場とその傍の入り江が見える場所もありますが、樹木が茂っているため眺望が開ける場所が少なかったです。

その後も連続する登りを進んでいると姫越山頂上に到着しました。姫越山頂上からは海とともに手前にかろうじて海とつながっていないと思える三角形の形に見える芦浜池が見え、ダイナミックな太平洋を望む景色の中のアクセサリのように感じました。

姫越山からの下りは登りと同じ道を通り、ほぼ下りの連続です。当日は11:10を過ぎてから登り始めたこともあって、下山時刻が遅くなるのが気になり始めました。そのため途中の休憩は登りに昼食を摂った展望台だけとなりました。展望台で小休止の後再び下り続け、登りで見かけた標高30mの津波発生の際の避難場所として指定されているジロハゲ避難所に到着して下山したという気持ちが湧き出しました。

駐車場まで戻ってきてカーナビに宿舎を目的地としてセットすると、到着予定時刻は18:25と出ました。これは遅い、19:00頃までに食事を開始しないと宿にも迷惑をかけることになりかねないと考え、入浴は夕食の後にせざるを得ないと皆さんに連絡しました。そこから、TMさんがスピードを上げ過ぎることなく滑らかなハンドルさばきで、1分、また1分と到着予定時刻を早めていただきました。他の1台のMZさんも同様だったと思います。結果、17:40頃に宿に到着。入浴を先に済ませ、19:00に夕食スタートとなりました。夕食会場は私達の人数にしては相当広い場所で、椅子席でもありくつろげました。最も核心部分となる料理の内容は、参加された皆さんからお褒めの言葉をいただき安堵しました。心配は杞憂だったようです。プレッシャーから解放され、お酒もおいしくいただきました。夕食後、男性3名用の部屋で二次会を行ないました。途中でもう一度入浴される方もおられ、旅館では思い思いにくつろいでいました。

[10月30日(日)]

翌朝、8:30に宿を出発し、パールロードを通り、途中の鳥羽展望台で休憩して鳥羽駅前レンタカーを返しました。ところがパールロード経由の道が予想外に時間がかかったのか鳥羽展望台でゆっくりしすぎたのか、レンタカーを返却する時刻が予定の10:00を過ぎ、レンタカーから荷物を下ろしたりまとめたりする時間を考えると定期船までの移動がギリギリになり少し焦りました。レンタカー営業所ではご好意により、事前をお願いしていたとおり荷物を預かっていただいたことは料金面だけでなく時間節約の意味でも助かりました。特に荷物は車両に乗せたままで良いとっていただいたことは迅速な行動に結びつきました。鳥羽マリンターミナルでは出港前の乗船客で混雑した中での慌ただしい時間に、SMさんが回数乗船券を購入されていました。往復の乗船券を持たれたままだったので、皆さんに乗船券を渡した方が良いのではと伝えると「渡すとなくす人がいる」と答えられ、そのまま皆さんを引率する形で乗船券をまとめて乗り場で提示されていました。人数が多い場合、いろいろなことが起こることを想定して行動されていて、リスク管理が行き届いていると感じました。

定期船の速度はもう少し遅いのかなと思っていたのですが、舳先からあがる波しぶきが側面の窓にかかるほどで結構なスピードが出ていました。途中菅島に寄港した定期船の乗船時間は約40分。当日は風いでいて揺れが少なく、海の色もきれいで快適な船旅でした。帰路の船内のことですが、TJさんが長い間座席から立って窓側の景色を見ておられました。更に時間は遡って当日の朝のことですが、旅館ではスタッフに、旅館が伊勢志摩サミットの会場として使われたことや賢島についてのお話を聞いておられたこと、例会2日目の朝に部屋から見た朝焼けが素晴らしかったこと等を話していただきました。そのほかに山行中もいろいろなことに感動されていて、TJさんは今回の例会を心から楽しまれていたと思います。

神島港に到着すると神島の地図等を表示した観光案内板が目飛び込んできました。私たちは一般

の観光者と同じく、地図上の観光道として示された道を時計回りに歩きました。島を一周する散策道は最初、漁港らしい車の通れない路地のような道を進みます。やがて階段が表われ、続いて登山道となります。最初のころの登山道は観光者が行くには急で、しっかりと登っていると感じましたが、ほどなく標高差の少ない歩きやすい道になりました。

最初に到着した観光施設は神島灯台でした。灯台着の時刻は12:00少し前。灯台の周囲に空き地があり、ベンチも少しあったため、ここで昼食にしようという意見があったのですが、陽がさして遮るものがなかったため、神島散策ルートについてもYoutubeをご覧になっていたTMさんが、監的哨跡の方が食事に適していると言われ、昼食は監的哨跡で摂ることになりました。

神島灯台を出発後、道なりに監的哨跡に向かって進んでいくと、右に分岐する道が表われます。今までの観光施設には要所要所に先行を示す案内標識がありましたが、ここには何もありません。多分灯明山山頂に続く道ではないかと思い進んでいくと次第に道が荒れ、狭くなってきました。途中Aさんが「この木には大きなトゲがある。」と言って注意喚起されました。見るとあちこちに大きなトゲがある木があります。それらのトゲをかわしながら少し進むと、灯明山山頂の標識がありました。山頂といっても周りは草木が繁茂し、その中には大きなトゲのある木が混ざっていて、少しの空きスペースもなく、眺望もないという状態でした。これでは、観光者は来ないだろうし、うっかり標識をつけて観光者が迷い込んだら迷惑がかかると思い、標識がないことに納得しました。

灯明山山頂から引き返し、監的哨跡に到着すると昼食場所に適した東屋がありました。さすがYoutubeは威力があります。お陰様でゆっくりと食事ができました。当日は帰りの船の出港時刻まで余裕があったため、監的哨跡でゆっくりと時間をとり、昼食後にSMさんが持参されたデザートをいただきました。のどかなぜいたくな時間でした。

三島由紀夫原作の小説「潮騒」は数回映画化されているようですが、1964年（昭和39年）の吉永小百合主演の第2作目と1975年（昭和50年）の山口百恵主演の第4作目が有名です。神島では、各観光施設で「潮騒」の映画の紹介がされており、小説のクライマックスとなった監的哨跡にも掲出されていました。各所の映画の紹介は、なぜか吉永小百合に統一されていて山口百恵は出てきません。やはり吉永小百合が上なのか。

神島は三重県鳥羽市ですが、位置的には鳥羽市街地よりも愛知県の渥美半島（特に先端の伊良湖岬）の方がずっと近いです。デザートタイムの後、監的哨跡の屋上で集合写真を撮影しました。灯明山山頂で大阪青雲会の旗を掲げて集合写真を撮る予定でしたが、頂上付近はスペースがなく皆さんで写真を撮れなかったものですから、代わりに監的哨跡屋上での集合写真で旗を掲げました。その時の写真の背景に渥美半島（伊良湖岬）が近くに写っていました。

神島港に到着してすぐ見た神島の観光案内板や途中の標識にカルスト地形と記載しているのを見て、どのようなものかと期待して順路に従い進んでいきました。今までハイキングルートの両サイドに樹木があったのが突然なくなり、開けた場所にてきたところにカルスト地形がありました。カルスト地形の見える場所でもゆっくりとくつろいでいました。カルスト地形は規模は大きくないですが、石灰岩と思われる白い大きな岩がありました。すぐ横に海があり、狭い砂浜もあって、多くの人のがのんびりとしている間に、SMさんとOさんが砂浜迄下りて行かれました。

カルスト地形を出発する前、良い景色なので集合写真を撮影しようと考え、近くの東屋で休憩しているグループに声をかけると、「自分たちは島の人です。」と気さくに自己紹介し、観光ガイドのようなノリで写真を撮影してくれました。良い人に撮影を頼んだものです。その後行き止まりで引き返す一幕もありましたが、無事島を一周しました。

神島港に近づいたあたりで、港のすぐ横に設置している大型のスピーカーから、「〇〇さん、〇〇の荷物が届きました。取りに来てください。」と放送が聞こえてきました。「〇〇の荷物」の内容は忘れましたが、大きさが想像できどのような準備をして荷物を受け取りに行ったらよいかわかるような言い方だったと思います。個人情報とかプライバシーとかいったものを意識しない良い意味でのレトロさとおおらかさを感じました。また、神島港近くでインバウンド向けの紹介看板を見つけました。その看板には「潮騒」のことを”Sound of Wave”と訳していました。確かにその通りなのです。

が、ちょっと情感が違うような。映画「波の音」では吉永小百合が主演しようが山口百恵が主演しようが観客動員数は何割か落ちたのではと思ってしまいました。

Aさん、TMさん、MZさん、他の方がくつろいでおられる間にも緊張感を持って運転をしていただきありがとうございました。また、共同担当とはいえ、乗り換えの際に皆さんがはぐれられないようにしたり、乗船券の購入をしたり、大人数の金銭の管理と支払いをしたりと、添乗員並みのお世話をしていただいたSMさん、ありがとうございました。Wさんには、記録担当の業務は行程の途中で気になることがあったりするとつい忘れがちになるものですが、きっちりと記載していただきましてありがとうございました。

今回の例会では、旅館の知人と話を進めていく必要があり、その結果参加される方があまりの少人数では私の面目丸つぶれとなるところでしたが、当初予定の定員どおり12名もの方に参加していただきましたので格好がつかしました。人数が集まればそれだけで良い例会、というのは好ましい評価の仕方ではないと思いますが、今回の例会については私自身はそういった心境でした。その意味で、今回の例会に参加していただきましたこと自体、誠にありがとうございました。